

当社は、ステークホルダーとの協働・共創を通じて未来を切り拓き、社会価値と経済価値の好循環を生み出し、豊かな社会の実現に貢献することを「2030年ビジョン」のありたい姿として掲げています。第2フェーズとなる「中期経営計画 2025-2027」においても、この方針を継続して推進しています。この好循環を実現するために、マテリアリティ(重要課題)を特定し、製品・サービスの提供と事業プロセスの両面から取り組みを推進しています。マテリアリティについては、3か年ごとの中期経営計画策定に合わせて定期的に見直しを行っています。

## マテリアリティ特定プロセス

重点課題の抽出	GRIスタンダードやSDGsなどの国際的なフレームワークやガイドラインを参照しながら社会課題を洗い出し、経営ビジョンや事業のバリューチェーンを踏まえ、当社グループと関連性の高い課題を抽出。
重要度の分類・評価	リストアップした課題の中から、当社事業に関連性の高い分野を抽出したうえで、事業軸と社会軸でマッピング。
自社での検討	メックの企業理念、「2030年ビジョン」中期経営計画との連動を踏まえて検討。
ESG委員会での意見交換	マテリアリティ素案について、社内外の有識者としてESG委員会のメンバーと意見交換。
マテリアリティの特定 取締役会で承認	特定したマテリアリティ、各要素について、取締役会で妥当性を認識し、決議。

## 重要度の高い取り組み評価

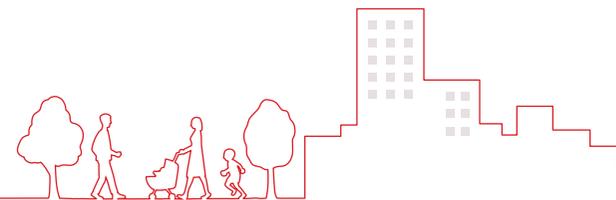
社会と自社事業の2軸から最も重要なテーマを特定し、影響度の評価をマッピングしました。

### ■ マテリアリティ特定のための評価

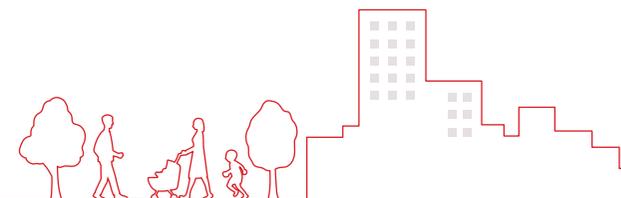


マテリアリティ	リスク	機会
1 未来を切り拓く 研究開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>● お客様ニーズの多様化、高度化に対応できないことによる信頼損失、業績低下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 顧客ニーズを把握し、お客様の価値を高める</li> <li>● 社会課題解決に貢献する</li> <li>● 持続的成長</li> <li>● 研究開発型企業としてあり続ける</li> </ul>
2 適正な調達、 生産、物流	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自然災害や感染症などにより原材料の調達が困難になることによる事業機会の喪失、業績の低下</li> <li>● お客様の要求に応えられないことによる信頼の低下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 調達パートナーとの協働による事業展開の安定</li> <li>● サプライチェーンの安定</li> <li>● ブランド価値、イメージの向上</li> <li>● お客様の信頼獲得</li> </ul>
3 環境保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>● リサイクルや廃棄物処理、情報開示に関わる規制の強化によるコストの増加</li> <li>● 気候変動を含む水リスクの発生により、当社ならびにお客様操業への悪影響</li> <li>● 対応が不十分な場合の市場損失や社会的信頼の低下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 原料の使用量や廃棄物処理の削減により事業コストが削減される</li> <li>● 適時適正な情報開示による安全・安心への期待が向上</li> <li>● 気候変動関連に貢献するビジネスの拡大</li> </ul>
4 品質と安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 特に研究所、工場などでの安全が確保されないことによる労働損失の発生</li> <li>● 生産性の低下</li> <li>● 失態によるブランド価値の喪失</li> <li>● お客様や社会からの信頼の失墜</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 安心・安全かつ安定して働けることにより事業計画が順調に遂行される</li> <li>● 従業員のリテラシー向上</li> <li>● ステークホルダーのニーズに寄り添った製品やサービスの提供による事業の拡大・発展・成長</li> </ul>
5 多様な人材の 活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 従業員の健康と安全が確保されないことによる労働損失の発生</li> <li>● 働きがいや成長を感じないことによる優秀な人材の離職・喪失</li> <li>● 職場環境の悪化により業務効率が下がり業績不振</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 優秀な人材の獲得と定着</li> <li>● 生産性の向上</li> <li>● イノベーションの創出</li> <li>● 会社の持続的な成長</li> <li>● お客様への還元増大</li> </ul>
6 経営基盤の 強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公正で透明な経営が確保できないガバナンス体制によるステークホルダーからの信頼の低下</li> <li>● 取締役会の実効性の低下</li> <li>● 事業環境の変化やリスクに対応できないことにより経営上重大な被害が発生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各種規制や制度を踏まえた誠実な事業活動によるステークホルダーからの信頼の維持向上、持続的成長</li> <li>● 健全な職場環境の構築により、従業員のモチベーションとパフォーマンスが向上</li> <li>● 事業機会の獲得・拡大</li> <li>● 経営の安定、持続的成長</li> </ul>

# マテリアリティとKPI、および関連するSDGsアクション



6つのマテリアリティ	マテリアリティ充足のための取り組み	2024年度のKPI (達成指標)	達成度	実施事項・施策【2024年度のKPI達成状況】	2030年の目標	関連するSDGsアクション
1 未来を切り拓く 研究開発	環境負荷低減製品の開発	Sustainableな製品開発	○	次々世代を見越した中長期的な活動として、社会課題改善型の製品開発、シーズ発信を行っている。2024年度は、環境負荷低減と性能確保を両立させた試作品を開発。性能評価中	●化学密着に関する技術の確立 ●廃液・排水処理の負荷低減	9 資源と技術革新の源をつくらう 17 パートナシップで目標を達成しよう
	新規事業の開拓	二次電池関連事業の推進	○	技術開発および課題抽出	柱となる新規事業を立ち上げる	
2 適正な調達、 生産、物流	SCM (サプライチェーンマネジメント)	原料メーカー訪問、技術検討会の開催や、経営層同士の交流を実施し、関係性を深める	○	原料メーカー訪問：12社 技術交流会：2社 経営層同士の交流会：1社	自然環境や人権を考慮し、環境に配慮した原料の調達や、原料・容器のリサイクル活動に取り組み、また、引き続き、責任ある資源調達に努める	9 資源と技術革新の源をつくらう 17 パートナシップで目標を達成しよう
	CSR調達	主要原材料調達先の複数化推進	○	主要原材料調達先の複数化を計画通り推進中		
	グローバル生産・供給体制の構築	各生産拠点における生産・供給能力向上	○	生産キャパシティ確保および効率化に関する運用実行	グローバル生産体制の構築/連結BCP体制確立	12 つくる責任 つかう責任
	BCP(事業継続計画)対応	安定した生産体制の構築	○	尼崎工場のパイロット工場機能強化、およびグローバル生産の統括機能強化他実行		
3 環境保全	適正な化学物質管理	含有禁止物質の不使用	○	含有禁止物質を使用しない仕組みの維持、環境法規制への対応などさまざまな化学物質の取り扱いについて、法に従った適切な管理を実施	化学物質の管理徹底により取り扱う方々の健康への影響を限りなくゼロにする	12 つくる責任 つかう責任 14 海の豊かさを守ろう
		教育の実施と情報の共有化	○	化学薬品メーカーとして、国内外の化学物質法規に関する教育を計画し、2025年より実施予定 また、化学物質を使用・管理する社員に対し、適切な危険有害性情報の共有を実行		
	気候変動問題への対応	TCFD提言に沿った情報開示の強化	○	2025年2月に、「移行」による変化の機会についての洗い出し他、公開内容を増やし、ホームページに掲載	社会の持続的な成長のため、地球環境問題に真摯に取り組む	13 気候変動に具体的な対策を
		Scope3に関する開示を行う	○	Scope3について、すべてのカテゴリに関する情報を開示	エネルギー使用の削減とネットゼロに向けての取り組みを実施	
4 品質と安全	安全衛生管理	休業災害件数：0件	○	休業災害件数：0件を維持 (不休業災害件数：0件)	安全で安心な労働環境を提供する (休業災害：0件を維持)	12 つくる責任 つかう責任 15 陸の豊かさも守ろう
	品質保証	品質保証体制の再構築と改善	○	品質保証体制の再構築に継続して取り組み、計画通り対応を完了	お客様が満足する「モノ・コト」をグローバルで提供し続ける	8 働きがいも経済成長も 17 パートナシップで目標を達成しよう
	適切な情報開示による企業価値の向上	適切な情報開示の実施	○	遅延のない情報開示と英文開示の拡充、投資家や株主とのコミュニケーションを実施	信頼性と透明性を高め、企業価値向上への貢献を推進	



6つのマテリアリティ	マテリアリティ充足のための取り組み	2024年度のKPI (達成指標)	達成度	実施事項・施策【2024年度のKPI達成状況】	2030年の目標	関連するSDGsアクション
5 多様な人財の活用	健康経営	健康診断の受診率維持	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各種健康診断受診率100%維持</li> <li>●オンライン健康セミナーの実施</li> </ul>	健康経営の推進、各種休暇制度の運用により、高い従業員満足度を維持する【男性従業員の育児休業取得率を2030年に85%以上とする(当社単体目標)】	   
	ワークライフバランス (WLB)	男性従業員の育児休業取得向上	○	2023年度:4名 2024年度:9名取得 (平均取得日数は83日)		
	働く環境の整備	職場環境の改善	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自転車安全講習を全対象者に実施</li> <li>●救命救護訓練を尼崎地区の事業所で実施</li> <li>●お金、健康について定期的な研修制度の検討</li> </ul>	多様な働き方に対応した職場環境の整備	
	キャリア形成	受講必須研修の原則全員受講	○	対象となる研修の受講率:約100% 社員一人ひとりがその能力を最大限発揮できるようプログラムを構築し、教育の多様化・充実化を促進	自立自走できる人財の育成と、公正で満足度の高い職場環境の実現を目指す	
	ダイバーシティ	多様な人財の採用	○	2024年採用は26名 女性12名、外国籍1名、障がい者1名		
	エンゲージメント	従業員と会社が対等で、共に成長できる関係性の構築	○	中期経営計画の従業員理解を深める施策を行うこと、会社が目指す姿や方向性を従業員が理解・共感できるようになる		
ガバナンス	取締役会の出席率85%以上(社外取締役)	○	社外取締役の出席率:100%	ガバナンスの強化により、社会から信頼される企業運営を行う		
6 経営基盤の強化	情報セキュリティ	重大セキュリティ事故発生件数:0件	○	重大セキュリティ事故発生件数:0件 保有する情報資産を適切に管理・利用するため、厳守すべき基本事項を定め、その適切な運用によって均質な情報セキュリティ管理を実現できるよう、取り組んでいる	機密情報漏洩に伴う損失の回避	
		自己点検の全員実施と合格率100%	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自己点検の全員実施および合格率100%</li> <li>●ITリテラシー教育の実施回数:10回</li> </ul> 従業員が理解しておくべきITの仕組みや、情報セキュリティ他に関するWeb教育を計画通り実施		
	リスクマネジメント	経営リスクの可視化と対策の実行	○	経営リスクの適宜見直しと対策の実行 当社グループの持続的成長を阻害する、経営リスクをはじめとするさまざまなリスクやその対策の可視化を行い、リスクマネジメント委員会にて報告し、審議実施	メックグループが持続的に成長するため、リスクと機会の把握を徹底する	